

令和4年度第3回（第30回）
ICT活用教育の推進に関する事業改善検討委員会 資料

- 【資料1】 令和4年度教育フェスタ（プレゼンテーション大会）報告
- 【資料2】 令和4年度教職員によるICT活用教育指導事例発表審査会報告
- 【資料3】 英語デジタル教材「SAGA eスタディ」の活用実績
- 【資料4】 大学1年生を対象とした情報活用に関する意識調査
- 【資料5】 G I G Aスクール構想支援事業（市町立学校の支援）について現状と課題
- 【資料6】 情報モラル、著作権等の研修について

令和5年2月10日（金）
佐賀県教育委員会

令和4年度 佐賀県教育フェスタ報告

令和4年度 佐賀県教育フェスタ
～未来を切り拓け! (Open up the future)～

<開催趣旨>

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来や新型コロナウイルスの感染拡大など、先行き不透明な予測困難な状況にあります。このような予測困難な社会の中で、たくましく生きる子どもを育てるために、次のような人づくりが求められます。

<令和4年度コンセプト>

*子どもの姿が見える教育フェスタ

→ すべての内容に子どもの姿が見えるように(プレゼン・表彰・動画・司会・実技など)

*これからの未来を生き抜くために必要であろう資質・能力が見える教育フェスタ

→ 令和4年佐賀県教育施策実施計画「志を高める教育の推進」を基に、各課・室が取り組む事業の実際を子どもの姿で表現していく。



佐賀県

特別支援学校の就労支援の紹介

うれの特別支援学校 職業自立コースの生徒が、就労に向けた学びの紹介をします。

未来を切り拓け!

オープニング

牛津高等学校ファッションショーを行います。

Fashion Show

参加費 無料

Open up the future

佐賀県教育フェスタ

日時

令和4年12月17日(土)

13:00～16:35 (12:30から受付)

SAGA部活の紹介

佐賀県における部活動改革「SAGA部活」今回は、小学生、中学生、高校生を含む複数世代で活動している学校/地域拠点型クラブを紹介いたします。

会場

佐賀県立美術館ホール エントランスホール

高校生ICT活用プレゼンテーション大会

高校生たちがプレゼン能力を高め、得意なICT活用発表を行います。

販売実習 (12:00～ 売り切れ次第終了)

児童生徒作品等 展示

YouTube LIVE

ライブ配信

配信時間 13:00～16:35

「KouhouSagaBOE」 @https://youtube.com/KouhouSagaBOE

QRコード

児童生徒ふるさと学習コンクール優秀作品表彰及び発表

県内外各地や佐賀県外のモノコト、ヒトなどについて調べ、学習した成果、ふるさとへの思いを発表します。

主催：佐賀県教育委員会 共催：佐賀県内20市町村教育委員会 新型コロナウイルス対策のため来場者数を制限することがあります

お問い合わせ先 学校教育課プロジェクトE推進室 ☎0952-25-7363(直通) E-mail gakkoukyouiku@pref.saga.lg.jp

詳細は佐賀県教育委員会HPまで ☎☎☎ ☎ https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/default.html

<主な発表等>

●オープニング

- ・ 牛津高校被服科

●高校生ICTプレゼンテーション大会

●就労に向けた特別支援学校の取組

- ・ うれしの特別支援学校

●SAGA部活の紹介

- ・ 佐賀東ジュニアなぎなたクラブ
- ・ 牛津なぎなたクラブ
- ・ 鳥栖レスリングクラブ

●児童生徒ふるさと学習コンクール

●販売実習

●司会進行（佐賀西高校放送部）



令和4年度改善検討委員会

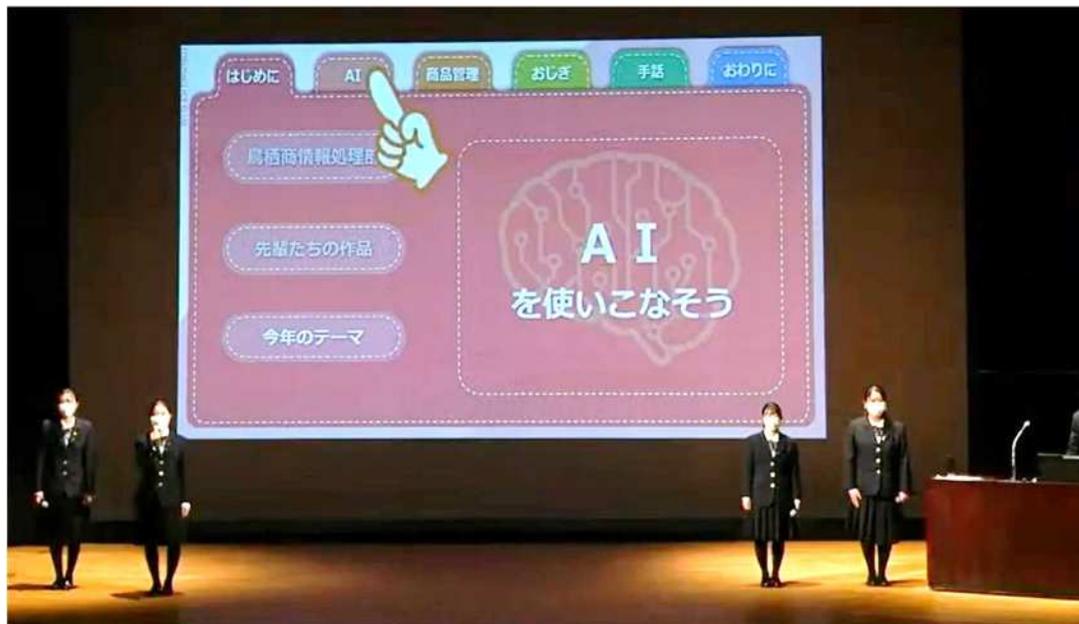
令和4年度 佐賀県教育フェスタ～未来を切り拓け！(Open up the future)～
生徒の思いが詰まった商品を販売します！

【販売商品】

<p>嬉野高校嬉野校舎</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○ 嬉野茶と嬉野和紅茶を使用した練り羊羹「麟翠(ひずい)」と「琥珀(こはく)」 ○ 地元製茶園と共同開発した嬉野茶ティーバッグセット「うちらの気分茶」 	<p>高志館高校</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○ JGAP 認証のミディトマト、栄養豊富なプロッコリー ○ 種まきから約1年大切に育ててきたシクラメン、ゴムノキ、空気清浄効果があるサンスベリア
<p>佐賀商業高校</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○ ごろっと大きな佐賀県産和牛を使用した高級カレー「極量カレー」 	<p>鹿島高校大手門学舎</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○ そら豆に地元鹿島の名物柚子胡椒を使った豆腐子「ゆず空」 ○ ゆずのペーストを使った給「ゆず丸」
<p>鳥栖商業高校</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○ 焼きドーナツ ○ しいたけ ○ 中原特別支援学校で製作されたコースターやペンダント 	<p>唐津南高校</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○ 唐津産のイチゴを、100%使用した手作りジャム。 ○ 唐津の特産品「甘夏(浜玉町産)」を使用した手作りマーマレード ○ 「虹の松原」の有効資源「若い松葉」のパウダー配合した松葉サイダー



令和4年度 高校生ICT活用プレゼンテーション大会 プレゼンテーションの概要			
発表順	タイトル	メモ	
1	広告動画作ってみた	優秀賞	
	出場者名		学校名
	SSPRプロジェクト		佐賀商業高等学校
プレゼンの概要等	佐商オリジナル商品の「ガバッジオ」「極星カレー」がコロナの流行により売上が激減したため、広告動画の作成に取り組みました。スマホやドローンを活用し、楽しんで、広告動画を作成する過程をプレゼンします。		
発表順	タイトル	メモ	
2	虹ノ松原×ICT 永遠につながる環境教育を目指して	優秀賞	
	出場者名		学校名
	唐津南高校虹ノ松原プロジェクトチーム ICT担当 鶴丸 空		唐津南高等学校
プレゼンの概要等	私は唐津の宝「虹の松原」を後世につなぐため、保全や啓発活動を行っています。先輩方の独創的で魅力ある活動に続くため、ICTを活用した新しい虹ノ松原、そして唐津の保全啓発につながる活動を考えました。		
発表順	タイトル	メモ	
3	鳥栖商AI活用プロジェクト	最優秀賞	
	出場者名		学校名
	鳥栖商情報処理部		鳥栖商業高等学校
プレゼンの概要等	鳥栖商情報処理部では、毎年ITのトレンドについて研究を行っており、今年はAIに着目しました。AIとプログラミングで学んだ技術を生かした利用のアイデアと研究実践を紹介します。楽しんでご覧ください！		
発表順	タイトル	メモ	
4	IMARI Food Project!!～地域で劇る伊万里SDGsモデル～	優秀賞	
	出場者名		学校名
	伊万里実業高校 フードプロジェクト部		伊万里実業高等学校
プレゼンの概要等	食品ロス問題解決のため、地域へフードドライブを導入し、福祉施設や地域児童クラブのおやつへ活用している。また県内企業との共同SDGsとして魚の骨を活用したビスケットを商品化し、SDGsモデルを構築した。		
発表順	タイトル	メモ	
5	「おと」の「かたち」	優秀賞	
	出場者名		学校名
	笑畫巻(えほうまき)		武雄高等学校
プレゼンの概要等	「皆と同じ」が求められる現代社会で、自分達の健聴者という視点の違い、手話という共通点を生かし、外から見えにくい障がいである「聴覚障害」に焦点を当て、多様な形の人々が生きやすい社会に向き合う。		



応募総数 25
 最優秀賞 1
 優秀賞 4
 優秀学校賞 鳥栖商業



<プレゼンテーション大会>

◆佐賀県高校生プレゼンテーション大会

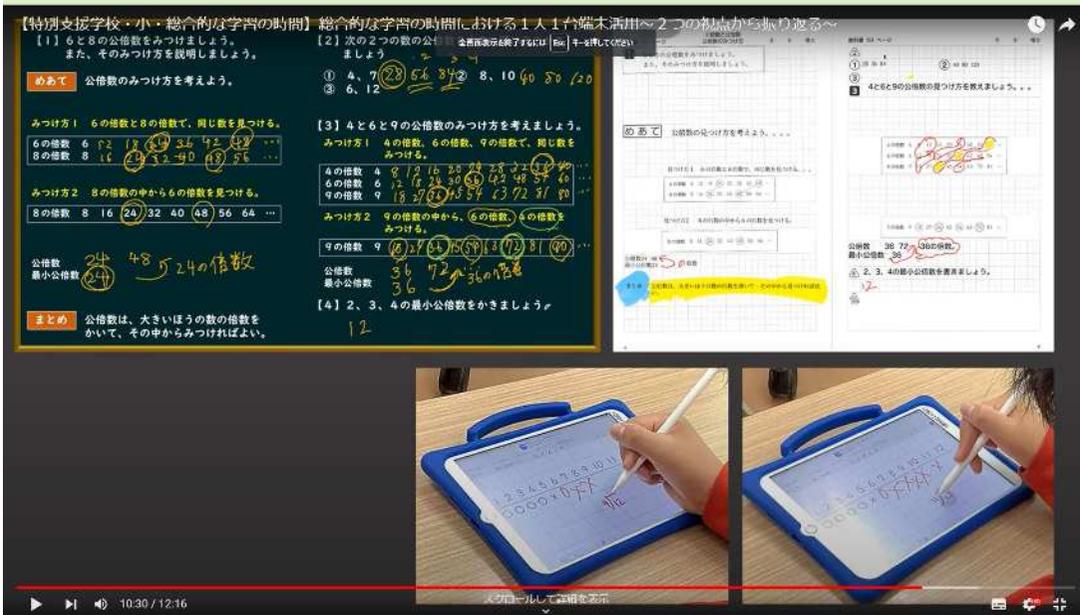
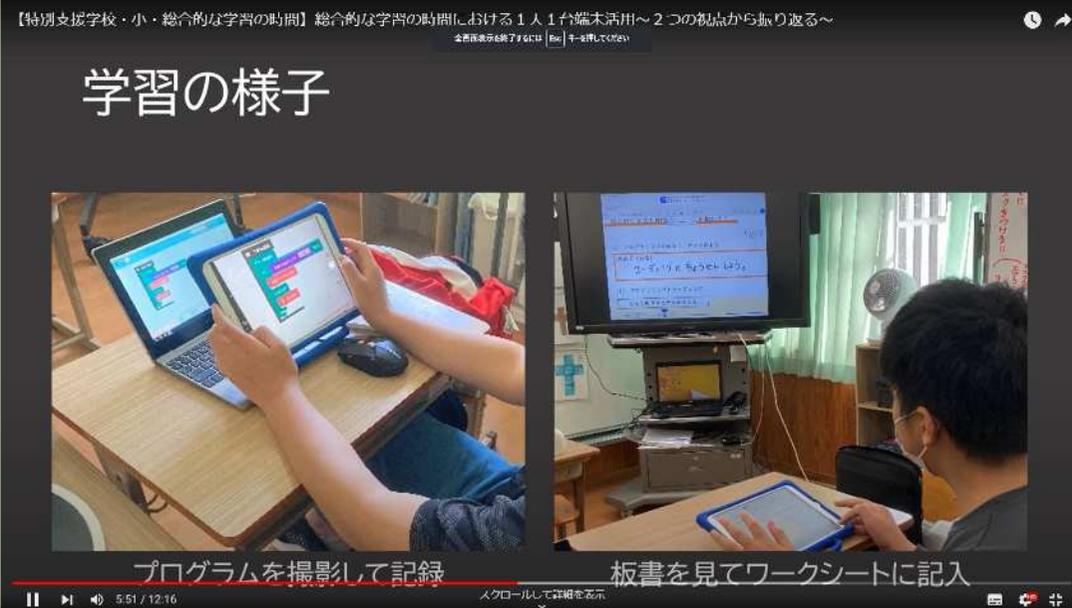
- ・平成26年から始まり来年度でちょうど10回目となる。
- ・始まった当初は「プレゼンテーション大会」というものが全国的にも少なかった。
- ・現在は、県内外でプレゼンテーションをするコンテストが多くある。
- ・今後、プレゼンテーション大会の在り方について、検討する時期に来ている。

R4 教職員によるICT活用教育指導事例発表審査会

【高校・特別支援学校部門】

R5.1.11実施

- 審査員：東京学芸大学 小泉力一研究員 他3名
- 発表動画提出による応募
 - ➡室内予備審査
 - ➡本審査（発表動画視聴・質疑応答）※オンライン



令和4年度 教職員によるICT活用教育指導事例発表 審査結果

【高校・特別支援学校部門】

2023.1.11実施

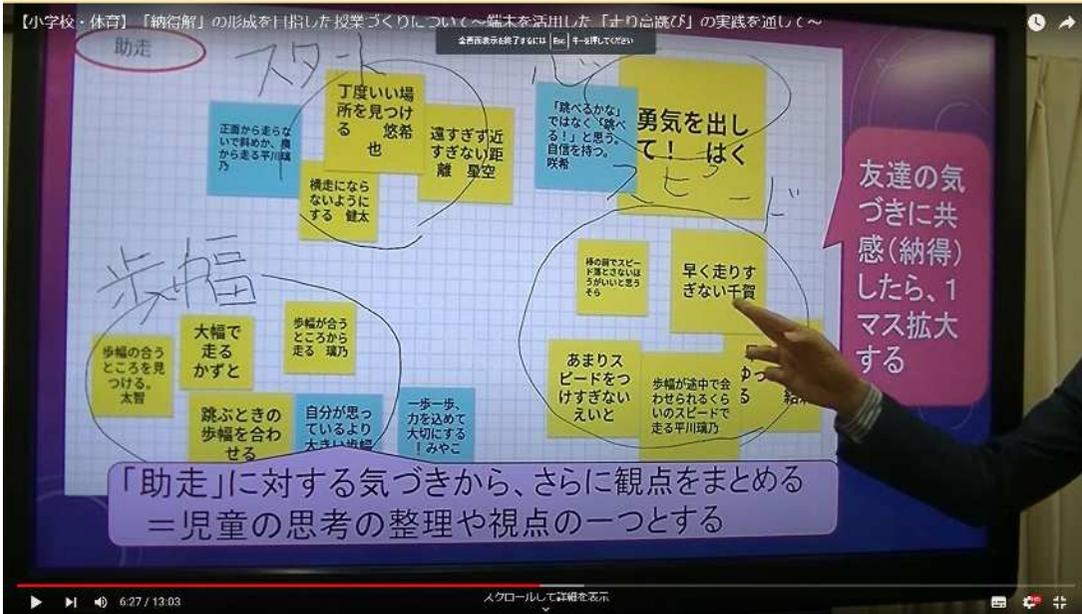
賞の名称	学校名	職名	氏名	教科・科目	タイトル
佐賀県教育長賞 (最優秀賞)	佐賀県立 中原特別支援学校	教諭	松永 泰臣	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間における1人1台端末活用～2つの視点から振り返る～ https://youtu.be/0OVx89Kocw
優秀賞	佐賀県立 白石高校	教諭	秀島 絵里	国語・現代の国語	話し方のポイントを生かしたスピーチ発表に関する指導 https://youtu.be/TDUxlmxwjo
優秀賞	佐賀県立 致遠館高校	指導教諭	大塚 健一郎	理科・理数生物	タブレットPCを活用し、自分の思考過程を客観的に捉え、情報共有を通して、思考力を育成する https://youtu.be/WF3-CwPVzY

R4 教職員によるICT活用教育指導事例発表審査会

【小・中学校部門】

R5.1.12実施

- 審査員：東京学芸大学 小泉力一研究員 他3名
- 発表動画提出による応募
 - ➡室内予備審査
 - ➡本審査（発表動画視聴・質疑応答）※オンライン



令和4年度 教職員によるICT活用教育指導事例発表 審査結果

【小・中学校部門】

2023.1.12実施

賞の名称	学校名	職名	氏名	教科	タイトル
佐賀県教育長賞 (最優秀賞)	鳥栖市立 弥生が丘小学校	教諭	久保 明広	小・体育	「納得解」の形成を目指した授業づくりについて～端末を活用した「走り高跳び」の実践を通して～ https://youtu.be/fsVCGUZhHq
優秀賞	鳥栖市立 鳥栖小学校	主幹教諭	古川 能正	小・全	学習者用端末を中心に据えた授業実践 https://youtu.be/UdQm7gnWWFg
優秀賞	武雄市立 朝日小学校	教諭	徳永 祐也	小・理科	padletを利用した意見の共有化と課題の見出し方 https://youtu.be/FB7odTxx-gA

成果と課題

成果

- 特に【小・中学校部門】の指導事例のレベルに向上が見られた。
- 優秀な発表動画を【SAGA Eコネクト】のサイトに掲載し、ICTを活用した指導事例を県内教員で共有予定



課題

- 応募段階で発表動画の提出が必要で、応募総数が減少（R3. 33本 → R4. 19本）
- 教科リーダー、エリアリーダーからの応募がほとんど



SAGA eスタディ 活用実績

【小学生・中学年・高学年用】

- 英語チャレンジ（1）、（2）
- [もじとおと・きく1・きく2・はなす]

【中学・高校生用】

- 英検5級～準1級
- [Reading1・Reading2・Listening・Writing・Speaking]

約600問収録



10月～1月活用状況 (単位：回)



校種別活用数

(単位：回)

	市町小	市町中	県立中	高校	特別支援	合計
10月	114	770	1	740	5	1630
11月	628	209	7	1289	3	2136
12月	305	624	384	3612	0	4925
1月	389	752	174	4784	0	6099
合計	1436	2355	566	10425	8	14690

成果と課題

成果

- 活用回数は、順調に伸びている
- 授業で最初の10分の活用、冬季休業中課題、外部リンク（例：CNN、BBC）の活用など
学校によって様々な活用が見られた

課題

- 学校によっては生徒の自主的な学習としてのみの扱い
- 県内学校の全体が利用できる環境にあるが、活用が進んでいない学校がまだまだ多い。



大学1年生を対象とした情報活用に関する意識調査 【令和4年度、令和3年度、令和2年度 比較】

※ ①～⑨については活用の能力に関する質問

できる…1、ややできる…2、あまりできない…3、できない…4

調査時期：令和5年1月
対象：県内の4年制大学に在籍する1年生
県内公立高校卒 n=135 それ以外 n=256

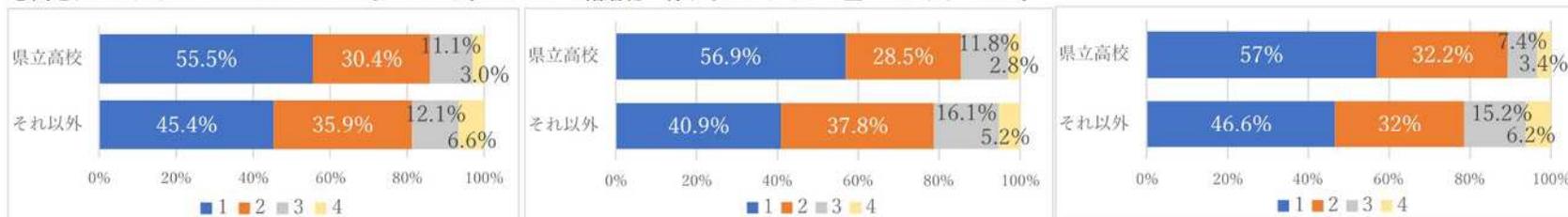
調査時期：令和4年1月
対象：県内の4年制大学に在籍する1年生
県内公立高校 n=144 それ以外 n=323

調査時期：令和2年11月
対象：県内の4年制大学に在籍する1年生
県内公立高校 n=121 それ以外 n=369

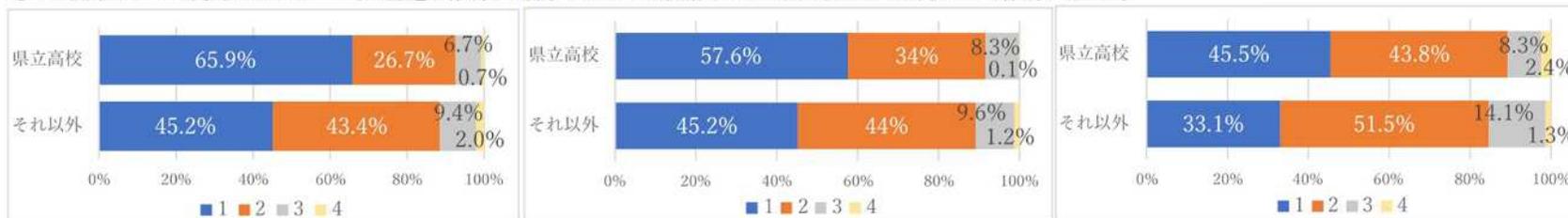
①1分間で40文字程度の速さでタイピングすること。



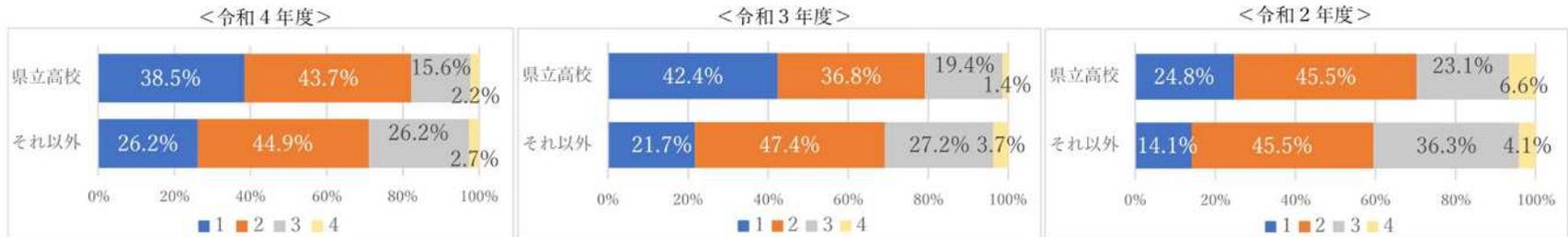
②関連するファイルを一つのフォルダにまとめたり、フォルダの階層化を行うなどファイルを整理したりすること。



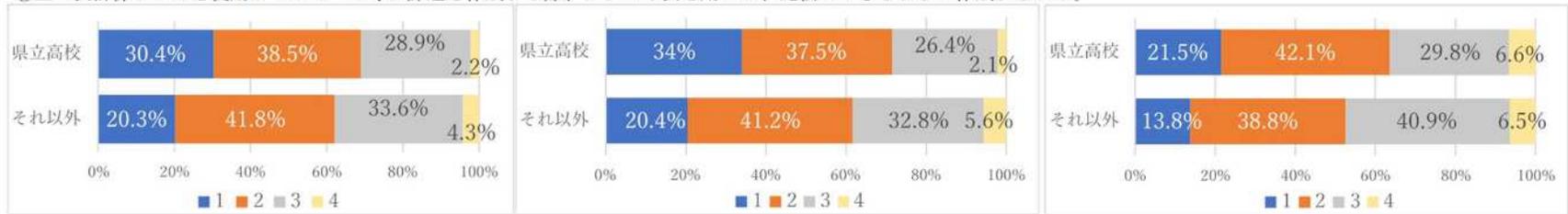
③主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、フォントや段落などを工夫し見やすい文章として作成すること。



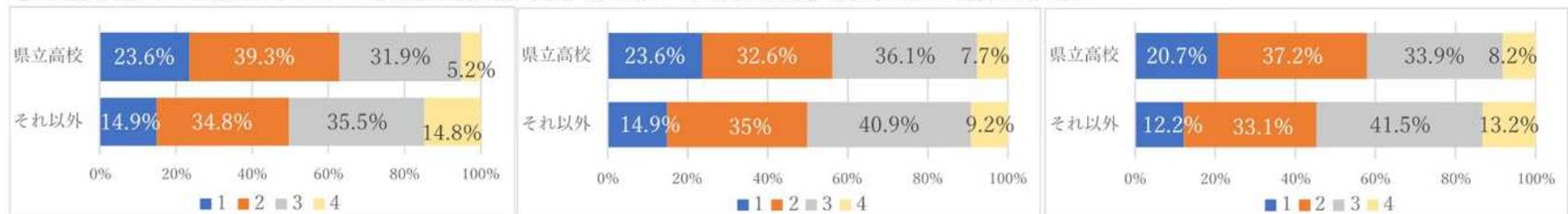
④主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、図や表などを使い、説得力のある文章として作成すること。



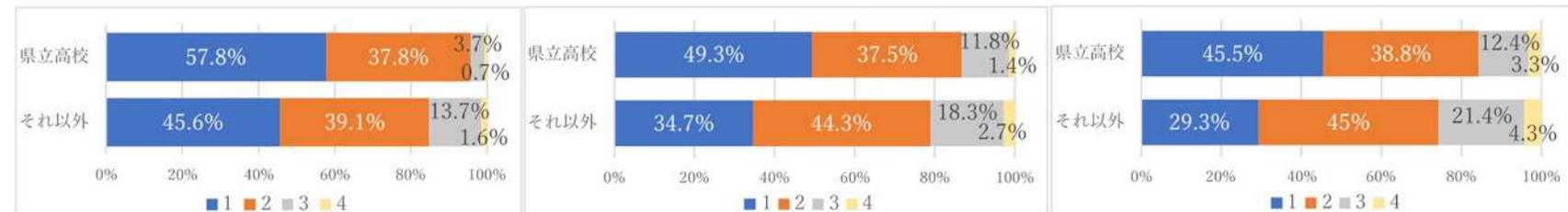
⑤主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、グラフや表を用いて、比較ができるように作成すること。



⑥主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、集めたデータを簡単な関数や数式を用いて分析すること。

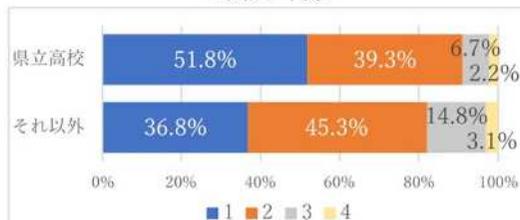


⑦主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、図やグラフなどをスライドに挿入して分かりやすくすること。



⑧主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、スライドの順序や論理性に注意し、自分の考えを伝えるようにすること。

<令和4年度>



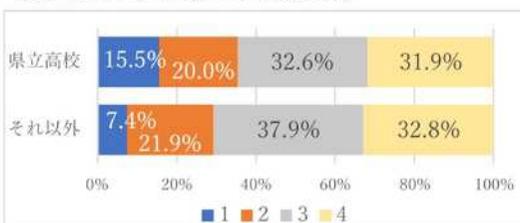
<令和3年度>



<令和2年度>



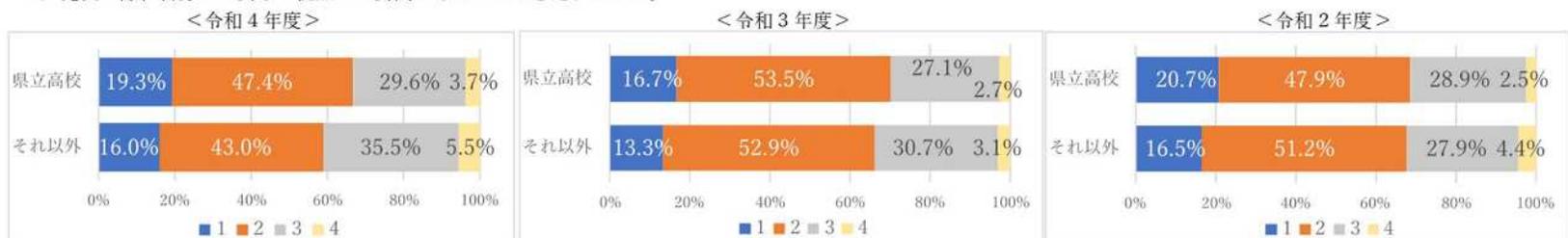
⑨簡単なプログラミングをすること。



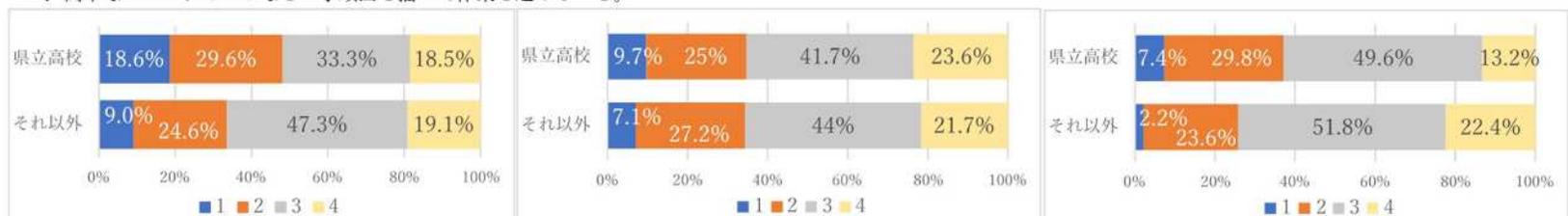
※ 1～9については活用の意識に関する質問

よくする…1、時々する…2、あまりしない…3、全くしない…4

1. 発表の際、自分とは異なる視点での質問があることを想定すること。



2. 簡単なフローチャートなどの手順図を描いて作業を進めること。



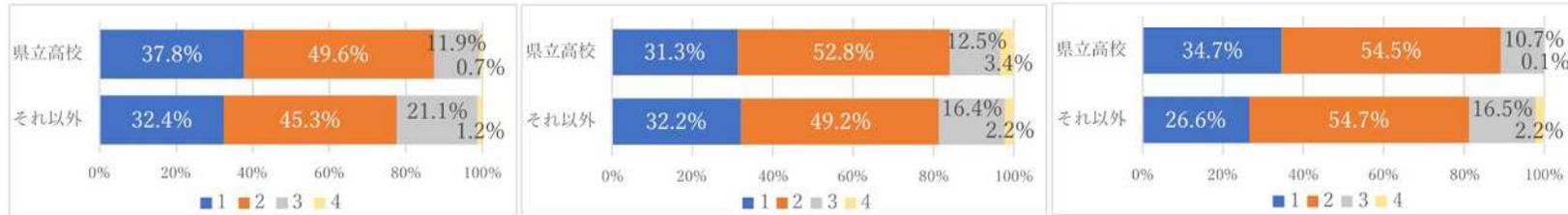
3. ソフトやアプリを活用して、互いの考えを交換し共有すること。



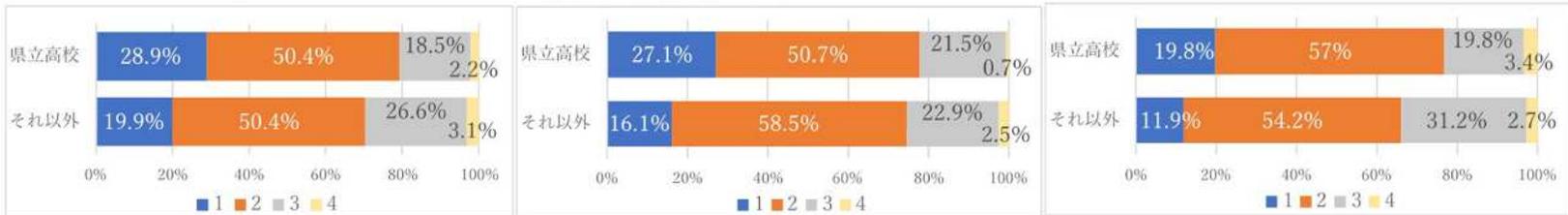
4. 必要な情報を得る際、インターネット（検索）や図書、新聞など調べる手段を使い分けること。



5. 得られた情報が正しいものかどうかを根拠をもとに判断すること。



6. 表やグラフなどの複数の資料から必要なものを選び、変化や傾向を読み取ること。



7. 動画サイトなどで講義や授業の動画をみること。



8. インターネット上にある練習問題や試験対策問題を解くこと。



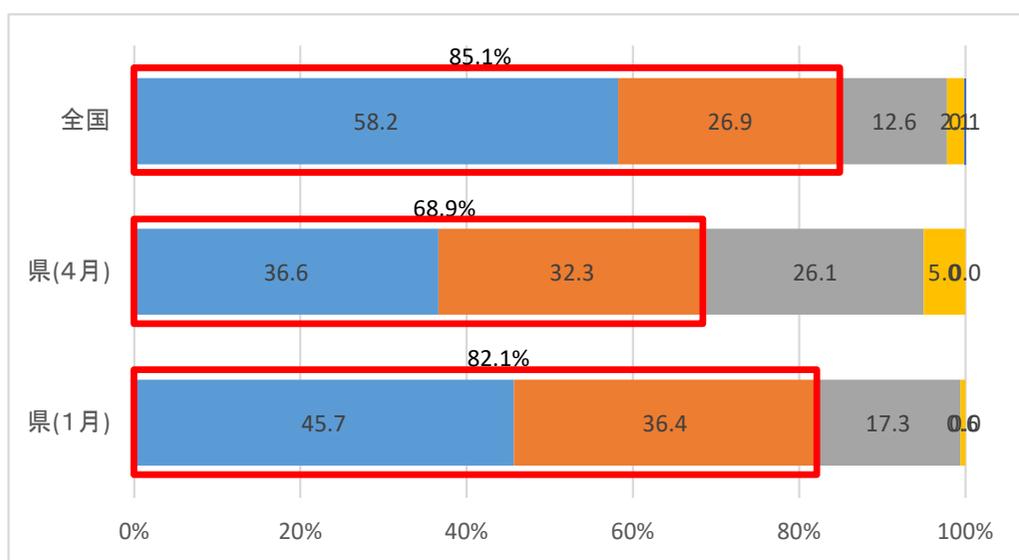
9. 学習ソフトやアプリを使って勉強すること。



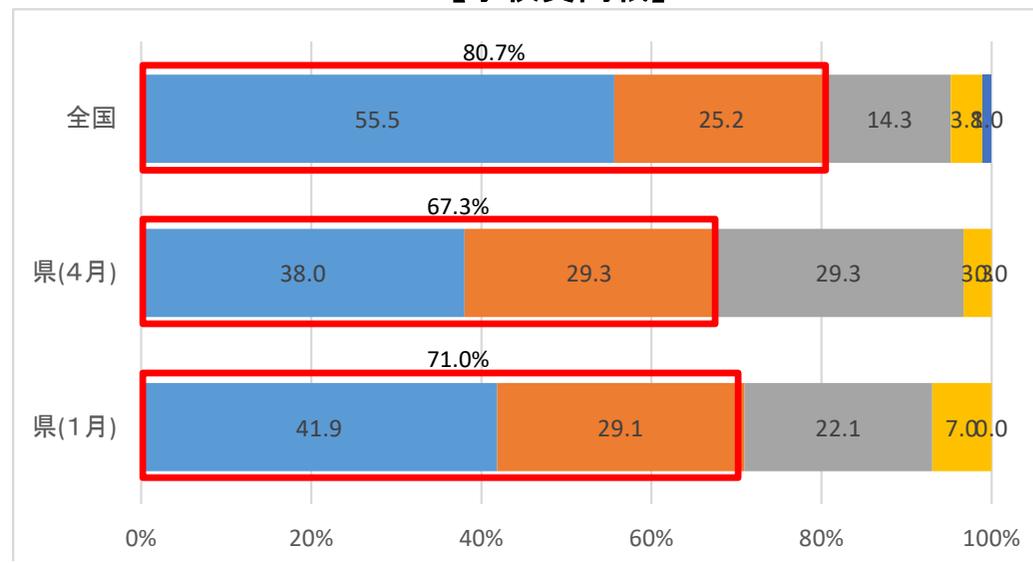
令和4年度の佐賀県の課題 ～ 全国学力・学習状況調査と県追調査(1月)より ～

Q 授業で、PC/タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか

小学校
【学校質問紙】



中学校
【学校質問紙】



■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

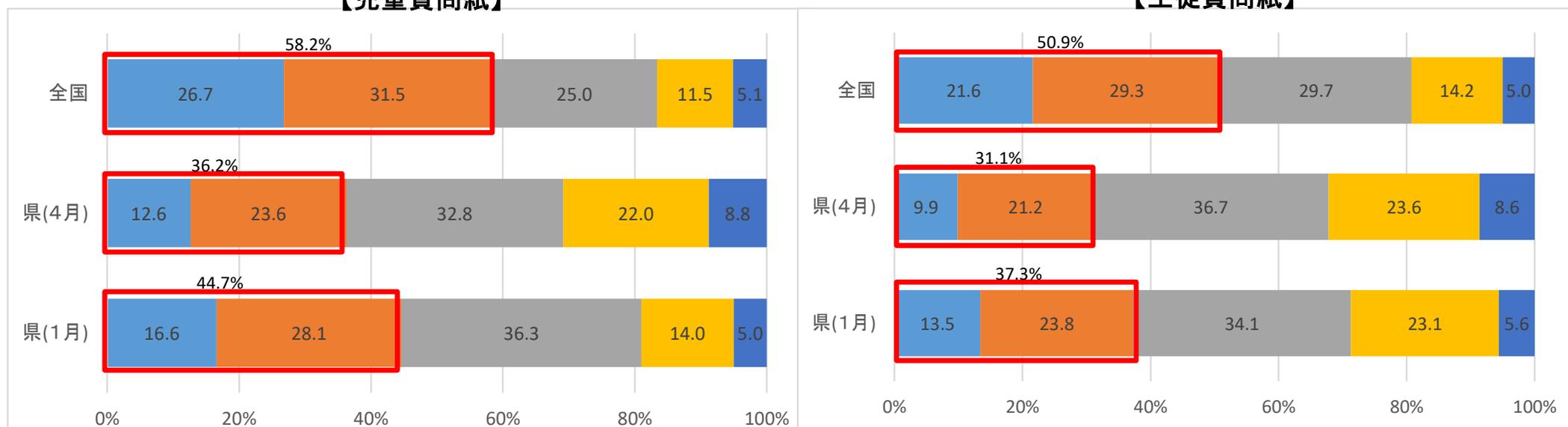
- 4月の調査と比べると若干の活用の伸びがみられる。
- 全国と比べるとまだまだ活用が進んでいない。
- 端末活用の頻度によって、子供たちの情報活用能力の差につながってくる。

令和4年度の佐賀県の課題 ～ 全国学力・学習状況調査と県追調査(1月)より ～

Q 授業で、PC/タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか

小学5年生
【児童質問紙】

中学2年生
【生徒質問紙】



■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

- 学校質問紙と児童生徒質問紙の回答に大きな違いがある。
- 週3回以上活用している割合が 小学校44.7% 中学校37.3% (1月調べ)
- 4月に行われた調査の全国平均(小58.2%,中50.9%)よりも低い数値となっている。

令和4年度の佐賀県の課題 ～ 全国学力・学習状況調査と県追調査(1月)より ～

- 全国と比べるとまだまだ活用が進んでいない。
 - 各学校・エリアで推進を図っていく必要性。
 - まずは、利用する段階からでも使っていく必要性。
- よく活用している学校とあまり活用していない学校の2極化が進んでいる。
 - 管理職のリーダーシップで組織的に端末活用を進める必要性。
- 環境整備が不十分なところがある。
 - ネットワークや設備の改善を行っていく必要性。
- 端末活用の頻度が、子供たちの情報活用能力の差につながる。
 - 子供たちの情報活用能力を身に付けさせるためには、子どもたちのスキルアップの時間を確保して、ある程度のスキル習得をさせることが必要不可欠。

【県が力を入れること】

- 市町教育委員会との協力
- プロジェクトE通信、SAGAEコネクトによる情報発信
- SAGA Eコネクト「先生たちの広場」への書き込みの活性化
- 希望する学校だけでなく活用が進んでいない学校への研修支援
- 学校全体で組織的に活用を進めることができるように管理職への研修

◆情報モラル、セキュリティ、著作権 等に関する記事

- ・学校だより掲載で著作権侵害 ～白石町、賠償金支払いへ～ (1/11 佐賀新聞)
- ・ICTリテラシー ～低学年層に浸透 トラブル増～ (1/9 朝日新聞)
- ・職員室の会話、録音流出 ～山口の中学校 内容聞いた生徒、不登校に～ (11/18 佐賀新聞)
- ・「ネットいじめ」知識不足の教員も ～「忙しすぎて向き合えない」～ (11/7 毎日新聞)
- ・ネットいじめも最多2万件超 ～見えにくい被害、対策急務～ (10/28 佐賀新聞)
- ・小中学校にサイバー攻撃 ～千葉「成績表ネット公開」脅迫～ (8/28 西日本新聞)
- ・小6半数、スマホ「1日1時間以上」 ～全国学力テストアンケート～ (7/29 佐賀新聞)
- ・通信機能悪用し中傷 ～学習用端末いじめ 教員の目届きにくく～ (6/6 読売新聞)
- ・子の情報収集流出の恐れ ～ネット学習支援「エドテック」の9割～ (5/26 西日本新聞)

◆プロジェクトE推進室が実施しているモラル等に関する主な取組

- 情報モラル委員会の設置（全県立学校）
- 情報モラルに関する年間計画の提出（全県立学校）
- 管理職研修（全県立・市町立学校管理職対象 オンデマンド）
- 情報モラル研修（全県立学校教員対象 オンデマンド）
※市町立教育委員会にも提供
- 情報モラルセミナー「ネット社会の歩き方」
（全県立学校・希望の市町立学校対象 対面・オンデマンド）
※情報モラル教育を推進する人材の育成
- 保護者会等で、情報モラルについての啓発を行うよう学校に周知